

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 4月 10日現在

機関番号：32663

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2012

課題番号：20530534

研究課題名（和文） 岡山孤児院の養護実践の質的内容と同院の実践の日本社会への影響に関する研究

研究課題名（英文） Studies on Qualitative Content of Child Care Practices at The Okayama Orphanage and The Okayama Orphanage Project Impacts on Japanese Society

研究代表者

菊池 義昭 (KIKUCHI YOSHIAKI)

東洋大学・ライフデザイン学部・教授

研究者番号：50258927

研究成果の概要（和文）：2008年度から2012年度までの5年間の研究を通してまとめた論文は20編である。その論文の内訳は、岡山孤児院の里預制に関する内容を分析した論文が11編、同院の明治40年代の音楽活動写真隊の活動内容を明らかにした論文が2編、同院の茶臼原農村づくりと農場学校設立前後の内容を解明した論文が3編、同院の大阪事務所の開設から財団法人石井記念愛染園の設立および同園設立前後の財政内容をまとめた論文が2編で、さらに、岡山孤児院が2つの災害で収容した貧孤児の内容と特徴を明らかにした論文が2編である。

研究成果の概要（英文）：In these five years, from 2008 to 2012, I had presented 20 academic papers about Okayama Orphanage's practice. Those articles are as follows: There are 11 articles about Okayama orphanage's foster-parent system (Sato-Azukariji-Seido). There are 2 articles about activity of Okayama orphanage's music and moving picture band during the 40's of the Meiji era (1906-1912). There are 3 articles about the day of around establishing Chausubaru settlement and agricultural school in Okayama Orphanage's Miyazaki Branch. There are 2 articles about the finance of Okayama orphanage Osaka branch and Ishii Memorial Ai-zen-en, an incorporated foundation, during their early period. In addition I had written 2 articles about detail of case and practice of Okayama orphanage's destitute children who rescued from two disasters in Meiji era in Japan.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	700,000	210,000	910,000
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	600,000	180,000	780,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学・社会福祉学

キーワード：岡山孤児院、石井十次、児童福祉史、社会福祉史、養護実践史

1. 研究開始当初の背景

近年石井十次によって創立された岡山孤児院の歴史研究が、社会福祉史の研究分野はもちろんのこと、キリスト教史、教育史、政治経済史の分野でも少しずつ注目されるようになってきている。

そんな研究状況の中で、筆者は、これまでの岡山孤児院史研究を通して、(1)同院の創立から解散までの約40年間の全入院児の数量的実態を確定し、(2)同院の重要な財源確保の方法であった、音楽幻燈(活動写真)隊の全国展開の具体的内容と役割をまとめ、(3)同院の約40年間の運営と実践を支えた年度別の財政内容を分析した。さらに、(4)これらの研究成果を踏まえて、岡山孤児院の約40年間の運営の実態と養護実践の展開過程および、その到達点を解明した。また、(5)このような研究の中から岡山孤児院の養護実践の中核にある「岡山孤児院十二則」の形成過程と各項目別の内容が重要と理解し、「同院十二則」の内容分析を実施した。加えて、(6)「同院十二則」の1つである家族制度を担保する生活空間(家庭舎)の形成過程等についても解明した。しかし、まだ未解明の部分が多く残されており、本研究では、岡山孤児院の養護実践の質的内容の分析とその実践の日本社会への影響を中心にまとめることにする。

2. 研究の目的

そのための具体的な研究課題としては、次の7点を中心に解明していきたい。

- (1)岡山孤児院の里預制の全体像とその歴史的意義の解明
- (2)茶臼原農村づくりの展開とその全体像の解明
- (3)個々の職員の活動内容とその役割の解明
- (4)出身者の日誌の解読とその内容の分析
- (5)写真資料の整理とその内容の解明

(6)賛助員の全国的ネットワークの実態とその社会的役割の解明

(7)音楽幻燈(活動写真)隊による慈善事業の民衆への啓蒙の実態解明

(8)岡山孤児院の実践の当時の慈善事業(社会事業)家や施設への影響の分析

3. 研究の方法

先の(1)から(8)の研究課題を具体化するための研究の方法は次のようになる。

(1)岡山孤児院の里預制の全体像とその歴史的意義の解明

石井十次資料館に所蔵されている、当時の岡山孤児院自身が作成した『里預院台帳』などが現存しており、それらの資料の解読と整理を行い、里預制の実態を分析する。

(2)茶臼原農村づくりの展開とその全体像の解明

茶臼原農村づくりの展開とその全体像の解明のための資料も、石井十次資料館に所蔵されており、それらの資料の収集と整理を実施し、茶臼原孤児院と殖民たちがどのように協同して茶臼原農村づくりを展開したかを解明していく。

(3)個々の職員の活動内容とその役割の解明

特に、明治20年代後半から岡山孤児院解散まで一貫して働いた小野田鉄彌の活動内容と同院での役割の変遷などを解明する。そのためには、小野田鉄彌の活動記録を石井十次資料館に所蔵されている多数の資料から抽出し分析する。

(4)出身者の日誌の解読とその内容の分析

1915(大正4)年4月に開校した農場学校の第1回卒業生で、その後殖民として茶臼原農村づくりを進めた出身者が日誌を残している。現存する1918(大正7)年から1941(昭和16)年までの日誌20冊を解読し、内容分析を行う。

(5)写真資料の整理とその内容の解明

約 2,000 枚以上の写真を、映像の内容から①石井十次関係、②院児関係、③職員関係、④建物関係、⑤日常生活関係、⑥作業関係などに分類し、同院の養護実践を含む実践の全体像を立体的に研究する。

(6) 賛助員の全国的ネットワークの実態とその社会的役割の解明

1 万人の賛助員と各地域の核となった地方委員の全国的ネットワークの実態は、『岡山孤児院新報』や『賛助員台帳』などの約 90 冊以上の資料に残っており、これらの資料を整理し、分析する。

(7) 音楽幻燈(活動写真)隊による慈善事業の民衆への啓蒙の実態解明

音楽幻燈(活動写真)隊による慈善事業の民衆への啓蒙の実態は、音楽幻燈(活動写真)隊が各地を巡回した際の、各地域の新聞等から、その入場者数や論評などの内容を解明する。

(8) 岡山孤児院の実践の当時の慈善事業(社会事業)家や施設に与えた影響の分析

この研究は、岡山孤児院が存在した明治 20 年代から大正時代までの主な慈善事業(社会事業)家の著書等や慈善事業(社会事業)施設の年誌(施設史)等から、石井十次や岡山孤児院に関する記述や影響を示す資料を収集し、その影響を分析する。

4. 研究成果

研究の目的との関係で、研究成果を要約すると次のようになる。

(1) 岡山孤児院の里預制の全体像とその歴史的意義の解明では、11 編の論文をまとめた。その結果、岡山孤児院の里預制の全体像とその個別事例の分析から、里預制での養護実践の内容がほぼ確認でき、明治後半から大正期の日本の中で組織的かつ大規模に実施された、今日の里親制度の原点の 1 つが、具体的事実に基き立証できたと判断する。特に、個々の

里預児と里親の全体像を確認し、里預け担当職員の活動記録などから、里親の里預児への養護実践の内容を事例的に裏付けられ、さらに、特定の地区(江戸時代から続く自然村)で多数の里預児を受け入れた実態と、その中から自然発生的にコーディネーターとなる地区世話役のような人物が登場してくることなどを解明したことが大きな成果であった。

(2) 茶臼原農村づくりの展開とその全体像の解明では、同院の茶臼原農村づくりと農場学校設立前後の内容を解明し 3 編の論文まとめ、石井十次院長が目指した茶臼原農村づくりの全体像とその実態を明らかにした。また、石井院長永眠後の茶臼原農村づくりの中核となる農場学校設立前後の内容も解明した。

(3) 個々の職員の活動内容とその役割の解明については、明治 30 年代前半の『岡山孤児院日誌』や明治 40 年代後半の『岡山孤児院年報』等を解読し、小野田鉄彌などの行動内容を確認した。

(4) 出身者の日誌の解読とその内容の分析では、農場学校の第 1 回卒業生の 1918(大正 7)年から 1941(昭和 16)年までの日誌 20 冊を解読し、1928(昭和 3)年まで刊行した。

(5) 写真資料の整理とその内容の解明では、約 2,000 枚以上の写真を、映像の内容から①石井十次関係、②院児関係、③職員関係、④建物関係、⑤日常生活関係、⑥作業関係などに分類し、資料目録の作成とデータベース化を進めている。

(6) 賛助員の全国的ネットワークの実態とその社会的役割の解明については、明治 30 年代前半の『岡山孤児院日誌』や明治 40 年代後半の『岡山孤児院年報』等を解読し、地方委員と賛助員の行動内容を確認した。

(7) 音楽幻燈(活動写真)隊による慈善事業の民衆への啓蒙の実態解明では、同院の明治 40 年代の音楽活動写真隊の活動内容を明らかに

し、2編の論文にまとめた。その概要は、明治40年代の音楽活動写真隊の準備員であった赤野五十二の資料と石井十次院長からの手紙を発見したことが契機となり、これまで資料不足から研究を進めることができなかった、同隊の具体的な活動内容の一端を解明することができた。特に、これらの資料から、清国や国内での音楽活動写真隊の詳細な活動内容が解明でき、当時の民衆への慈善事業の啓蒙の実態も判明してきた。

(8) 岡山孤児院の実践の当時の慈善事業(社会事業)家や施設への影響の分析については、時間的な関係で実施できなかった。

ただし、その他に、岡山孤児院の明治後半のもう1つの事業である大阪事務所の開設とその活動内容を解明し、さらに、それを引き継いだ財団法人石井記念愛染園の設立前後の財政内容を、2編の論文にまとめた。

また、今回の東日本大震災の経験から、岡山孤児院が濃尾大震災で収容した震災孤児と東北三県凶作で収容した貧孤児の収容後の養護実践の実態を分析する必要性を認識し、個別の入院児の数量的特徴などを2編の論文にまとめた。

さらに、本研究を通してまとめた論文等22編を1冊にまとめ、科研費報告書を作成した。その内訳は、岡山孤児院の里預制に関する内容を分析した論文が15編、同院の明治40年代の音楽活動写真隊の活動内容を明らかにした論文が2編、同院の茶臼原農村づくりと農場学校設立前後の内容を解明した論文が3編、同院の大阪事務所の開設から財団法人石井記念愛染園の設立および同園設立前後の財政内容をまとめた論文が2編である。

そして、先の研究を通して、今後継続的に取り組むべき研究課題も明らかになってきた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計19件)

- ① 菊池義昭、岡山孤児院の2つの災害での貧孤児収容とその歴史的役割の概要、ライフデザイン学研究、査読有、第8号、2013年、85-118
- ② 菊池義昭、濃尾大震災での岡山孤児院の位置と震災孤児院の養護実践の内容、東北社会福祉史研究、第31号、2013年、1-26、査読無
- ③ 菊池義昭、岡山孤児院の里預制における地区世話役の活動内容と役割、石井十次資料館研究紀要、第13号、2012年、62-103、査読無
- ④ 菊池義昭、岡山孤児院の音楽活動写真隊と清国での慈善会の開催実態の分析ー赤野五十二準備員が残した1907年から1909年の慈善会関係資料を通してー、石井十次資料館研究紀要、別冊I、2012年、38-125、査読無
- ⑤ 菊池義昭、岡山孤児院の音楽活動写真隊と赤野五十二準備員の国内での慈善会の活動実態、東北社会福祉史研究、第30号、2012年、9-62、査読無
- ⑥ 菊池義昭、岡山孤児院の「茶臼原農村」づくりと農場学校開校の前提条件、ライフデザイン学研究、査読有、第7号、2012年、143-179
- ⑦ 菊池義昭、岡山孤児院の「茶臼原農村」づくりにおける物的環境条件の整備過程ー1905年から1917年頃までの茶臼原孤児院の動きを中心にー、石井十次資料館研究紀要、第12号、2011年、4-69、査読無
- ⑧ 菊池義昭、岡山孤児院の1917年から1919年の里預け終了児の個別事例の内容と特徴、ライフデザイン学研究、査読

有、第6号、2011年、85-128

- ⑨ 菊池義昭、岡山孤児院の1920年から1925年の里預け終了児の個別事例の内容と特徴、東北社会福祉史研究、第29号、2011年、1-40、査読無
- ⑩ 菊池義昭、茶臼原農村づくりと農場学校の概要、石井十次資料館研究紀要、第11号、2010年、265-289、査読無
- ⑪ 菊池義昭、1914年から1916年の岡山孤児院の里預制の展開-127事例の全体像と里預制の数量的な内容を中心に-、岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究、2010年、90-111、査読無
- ⑫ 菊池義昭、1917年から1926年の岡山孤児院の里預制の終息期と里親の地区分布の特徴、石井十次資料館研究紀要、第11号、2010年、56-131、査読無
- ⑬ 菊池義昭、1917年から1926年の岡山孤児院の里預制の終息までの内容-その動向と里預児110事例の数量的な内容を中心に-、東北社会福祉史研究、第28号、2010年、1-26、査読無
- ⑭ 菊池義昭、1914年から1916年の岡山孤児院の里預制の活動実態と「情合関係」の形成過程-130事例の内容分析を通して-、岡山孤児院におけるネットワーク形成と自立支援に関する総合的研究、2010年、112-170、査読無
- ⑮ 菊池義昭、1914年から1916年の岡山孤児院の里親の地域分布と専門化の動向、ライフデザイン学研究、査読有、第5号、2010年、75-108
- ⑯ 菊池義昭、岡山孤児院の里預制の具体的実践の把握-1912年前後の担当職員の業務日誌を通して-、ライフデザイン学研究、査読有、第4号、2009年、131-

167

- ⑰ 菊池義昭、1912年前後の岡山孤児院の里預制の具体的実践の解明、東北社会福祉史研究、第27号、2009年、3-26、査読無
- ⑱ 菊池義昭、若林義輝、設立前後の財団法人石井記念愛染園の財政内容とセツルメントの概要、石井十次資料館研究紀要、第10号、2009年、29-84、査読無
- ⑲ 菊池義昭、田谷幸子、岡山孤児院の里預制と安定期の運用内容、石井十次資料館研究紀要、第9号、2008年、51-82、査読無

[学会発表] (計5件)

- ① 菊池義昭、岡山孤児院の2つの災害での貧孤児収容とその歴史的役割、社会事業史学会、2012年5月12日、日本女子大学
- ② 菊池義昭、岡山孤児院の里預制と地区世話役の登場-赤磐郡可真村の事例を中心に-日本社会福祉学会、2011年10月9日、淑徳大学
- ③ 菊池義昭、岡山孤児院の里預制と地区世話役の活動、社会事業史学会、2011年5月7日、ノートルダム清心女子大学
- ④ 菊池義昭、岡山孤児院の里預制と里親地区の形成の考察-葛城村国ヶ原での里親の専門性とネットワーク形成を中心に-、日本社会福祉学会、2010年10月9日、日本福祉大学
- ⑤ 菊池義昭、岡山孤児院の里預制における全里親のタイプ別実態の分析(2)-専門的な里親の形成過程の基盤を探るために-、日本社会福祉学会、2009年10月10日、法政大学

〔図書〕（計 2 件）

- ① 菊池義昭、科研費報告書、岡山孤児院の養護実践の質的内容と同院の実践の日本社会への影響に関する研究 2013年、994
- ② 菊池義昭、社会福祉法人石井記念愛染園、石井十次の残したもの－愛染園セツルメントの 100 年、2010 年、610 (125－186)

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

菊池義昭 (KIKUCHI YOSHIAKI)

東洋大学・ライフデザイン学部・教授

研究者番号：50258927

(2) 研究分担者 (0)

(3) 連携研究者 (0)